

にこにこ特別支援学級 自立活動学習指導案

日 時 平成 26 年 9 月 12 日 (金) 5 校時
児 童
指導者

1 題材名

たからものをみつけよう(自作教材)

2 題材について

(1) 子どもについて

にこにこ学級には、3 名の子ども達が在籍している。元気に学校生活を送っているが、マイペースで周りの状況を見て行動するということが苦手である。また、相手の話す内容を理解できなかつたり、自分の気持ちをうまく伝えられなかつたりするためにトラブルになることが見られる。

普段の学習は、にこにこ学級で学習し、音楽や体育などは、交流学級の子ども達と一緒に学習している。学校行事では、配慮してもらいながら他の子ども達と同様の経験を積むことができています。

にこにこ学級での学習は、一学期には、一斉指導の形をとり進めてきた。一斉指導を行うことで発表の仕方や学習の構えなどの指導が行いやすく、学習の方法やヒントを友達に教えるなど自然なかかわりも出てきて、一緒に学ぶ良さも見えてきている。また、「おはなしのとおりに」という自作教材で意図的に上下左右を扱ったことで、指示を聞いて行動できるようになってきた。

子ども達は、全員平仮名を読むことができる。日常生活で目にする教科等の漢字も読むことができる。しかし、書くこととなると個人差が表れてくる。筆圧が弱かつたり、字形を整えて書くことや曲線を自在に書くことが難しかつたり、濁点混じりの単語やつまる音の表記などが難しかつたりする。漢字は、1 年生の漢字を書く程度である。話すことに対しては、抵抗感があまりないが、自分の感想を中心に発表する子、周囲のうけをねらい問われていることからずれて発表してしまう子、発音が不明瞭で聞き取るのが難しい子がいる。

相手の話を聞き違えたり、話を聞かずに取り組んで投げ出したりするなど、指示を聞いて行動に移すことが難しいので、指示を正しく聞いて操作したり、相手に正しく伝えたりすることを通して、指示通りに行動する力を育てることができると考え、この題材を設定した。

(2) 題材について

一学期の題材「おはなしのとおりに」は、「□は、△の上下左右にあります。」の文を読み、具体物を指示通りに並べる活動を通して、指示通りに行動する力を育てることをねらいとしていた。

本題材では、二つ以上の名詞とカードや具体物のマッチング・上下前後左右の方向感覚・主語に対する上下前後左右の空間認知が正確であることが必要になってくる。このことから、この題材に取り組ませることは、上下前後左右の理解を一般化し日常生活に対応させることができるとともに、指示の通りに行動する力を高めることができると考えられる。

指示の通りに操作するとは、指示を受けて具体物を正しく配置すること、配置した場所を前後左右の言葉を使って話したり文にしたりすることである。さらに、相手に教えることを通して、相手に正しく伝わっているか経験することができる。

一学期に実施しての課題は、指示の通りにできたか各自が判断することが難しかつた。そこで、本

題材『たからものをみつけよう』では、宝物マグネットを使いながら、子ども達が意欲を持ち学習を進めることができるようにしていきたい。

単元のまとめでは、床に升目を作り前後左右に進むことで宝物にたどりつけるようにし、興味を持ちながら宝物探しができるようにしていきたい。

(3) 指導にあたって

題材の導入においては、興味関心を持続させながら前後左右の空間認知を確かにするために、指示の言葉に変化を持たせた学習を行っていきたい。

机上に具体物を並べることや、並べられている具体物の位置関係を発表したり文にしたりする学習活動を行い前後左右の理解を深めさせたい。上下の言葉が前後に変化するの、具体物がどこに置かれているか、つまり垂直か平面かで言葉の使い分けが出てくることも考えさせていきたい。

宝物マグネットを裏返して確認させることで、操作の正しさを即座に判断できるようにさせる。教室の床に表示した升目を動いて、宝物を見つけることで、前後の移動と左右の移動のどちらが先になっても、同一の場所にたどりつくことに気付かせていきたい。また、別々のスタート位置から出発し、同一の宝物のたどりつくように設定することで、前後左右の表現が幾通りもあることに気付かせ、興味関心が持続するようにさせていきたい。

題材のまとめでは、マグネットの裏に表示した宝物から、カードに記した動物の位置をそれぞれ発表することで、アニマルハンティングに発展させて行きたい。

3 個別の実態と目標

氏名	学年	実態	目標
Y K	3	<ul style="list-style-type: none"> 前後左右を間違えずに答えることができる。 話し手に注目して聞くことが難しく会話が一方的になりがちである。 相手の気持ちを考えずに、自分の考えを通そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 方向を表す言葉を理解し、正しく動くことができる。(環境の把握) 相手に着目して話を聞くことができる。(人間関係の形成) 相手の立場を考えて、その場にふさわしい話し方ができる。(コミュニケーション)
T K	4	<ul style="list-style-type: none"> 指示の通りに身体を動かすことが難しい時がある。 技能や体力面で、他者に遅れると集中が切れてしまう。 相手の話を取り違えて聞くことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 見たり聞いたりしたとおりに体を動かすことができる。(身体の動き) めあてを持ち最後まで取り組むことができる。(心理的な安定) 相手の話を正しく聞くことができる。(コミュニケーション)
R H	5	<ul style="list-style-type: none"> 意欲があるときとない時がはっきりしている。 指示を聞かずに取り組んで、途中で投げ出してしまう時がある。 発音が不明瞭なところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 調子が悪い時、自分の健康状態を訴えることができる。(健康の保持) 励ましを受け、最後まで取り組むことができる。(人間関係の形成) あわてずに単語を区切って話すことができる。(コミュニケーション)

4 題材の目標

- (1) 楽しみながら前後左右の学習をしようとする。
- (2) 指示を聞いて前後左右に動くことができる。
- (3) 前後左右の言葉を使い具体物の位置を相手に伝えることができる。

5 指導計画（総時数 8時間）

第1次 「前後左右に動いてみよう。」（1時間）

第2次 「指示を聞いて、宝物をかくそう。」（2時間）

第3次 「宝物を見つけよう。」（3時間 本時 2/3時間）

- ・机の上の宝物のありかを前後左右を使い文にする。
- ・教室の床の宝物のありかを友だちに教える。
- ・スタート地点をかえて、宝物のありかを表現する。

第4次 「アニマルハンティングをしよう。」（2時間）

6 本時の指導

(1) 本時の目標

ア 共通の目標

- (ア) 進んで学習に参加しようとする。
- (イ) 前後左右を使い、宝物のありかを相手に伝えることができる。

イ 学習の様子・目標・観点・評価の観点

学年	学習の様子 実態	本時の目標	支援の手立て	評価
3	<ul style="list-style-type: none"> ・前後を間違えずに答えることができる。 ・話し手を向いて指示を聞くことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宝物のありかを文にすることができる。 ・指示を正しく聞き、宝物のありかを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を使うように声がけする。 ・指示の内容を確認しながら進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を使い宝物のありかを文にできたか。 ・宝物のありかを友だちに伝えることができたか。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・指示を聞いて、体を動かすことが難しい時がある。 ・臆せずに話しかけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタート地点から正しく道筋をたどることができる。 ・左右を取り違えずに宝物のありかを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示通りに床の升目を移動させる。（左右は、横歩き） ・話形を手がかりにして発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左右を間違えずに床の升目を動かすことができたか。 ・前後左右の言葉を入れて宝物のありかを伝えることができたか。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して取り組むことが難しい。 ・自分の思いのままに操作してしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・床の升目を正しく数えることができる。 ・指示を聞いて、宝物までたどり着くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで取り組めるように学習シートを工夫する。 ・集中して取り組めるように宝物をかき作業をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示の通りに動いて宝物を見つけることができたか。 ・宝物のありかを友だちに伝えることができたか。

(2) 展開

段階	学習活動	支援 (・)		評価 (※)	
		3年男	4年男	5年女	
つかむ	1 前時を想起する。 ・宝物のありかを発表する。 (宝物は、前に2つ目、右に3つ目にあります。)	前時は、宝物探しをしたことを想起させる。(宝物は、前に2つ目、右に3つ目にあります。)			
5分	2 本時の学習内容を知る。 宝物のありかを友だちにおしえよう。	・操作をさせながら、緊張感を和らげる。 ・道筋を指で確認させる。 ・宝物のありかを復唱させて発表させる。	・スタート地点から道筋を指でたどらせて学習活動への関心を引き付ける。		
ふかめる	3 宝物のありかを教える練習をする。 ※宝物の配置を机上の升目を使い操作する。 ・宝物マグネットを配置する。 ・スタート地点を決める。 ・宝物のありかを文にする。 宝物は、前に3つ目、右に2つ目にあります。	・見つけた宝物を友達に教えたいという気持ちを持たせながら課題設定をする。			
	4 宝物のありかを友達に教える。 ・自分がおいた宝物のありかを友達に教える。 ・前後、左右のどちらを先に話しても、宝物探しができることが分かる。	宝物を任意の場所に置き、宝物のありかを文にする。 ・速やかに宝物を配置させる。 ・指示を正しく聞けたか確認して活動させる。	・前後左右はカードにし、進む数字を記入して、宝物のありかを文にさせる。		
		宝物のありかを文にして伝える。			
35分		宝物のありかを聞いて、宝物を探す。 ※宝物のありかを正しく文にすることができたか。	・前後、左右のどちらから移動しても宝探しができることに気付かせる。 ※左右を間違えずに、宝物のありかを文にすることができたか。	・数字を入ると、ありかを示す文になる話形を用意する。 ※話形にそって、宝物のありかを文にすることができたか。	

	<p>5 床の升目を使い、宝物のありかを友達に教える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床の升目を使った宝物探しをする。 ・複数のマグネットから宝物を探す。 ・スタート地点をかえて、宝物探しをする。 	<p>床に置いた宝物のありかを友だちに教える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝物のありかをよく聞くように促し宝物を探させる。 <p>※宝物のありかを正しく伝えることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・位置を表す言葉に着目させる。 <p>※宝物のありかの位置と数字を正しく伝えることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宝物のありかの位置と数字を正しく聞いたか確認する。 <p>※話形にそって、宝物のありかを伝えることができたか。</p>
まとめ 5分	<p>6 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりをする。 ・感想を発表する。(楽しかったこと。分かったこと。) ・次時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の成果を確認し、今後の意欲付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・宝物のありかを文にして友だちに伝えたことを中心に発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・床の升目でも宝物探しができることを中心に発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく宝物探しができることを中心に発表させる。

(3) 本時の評価

ア 評価

- 進んで学習に参加できたか。
- ◎前後左右を用いて、宝物のありかを伝えることができたか。

Y	<ul style="list-style-type: none"> ・宝物のありかを正しく文にすることができたか。 ・宝物のありかを正しく伝えることができたか。
T	<ul style="list-style-type: none"> ・左右を間違えずに、宝物のありかを文にすることができたか。 ・宝物のありかの位置と数字を正しく伝えることができたか。
R	<ul style="list-style-type: none"> ・宝物のありかを話形にそって話すことができたか。 ・話形にそって、宝物のありかを伝えることができたか。

(4) 板書計画

たからものをみつけよう

たからもののありかを友だちにおしえてよう。

たからもののありかを文にする。

① たからものをかく。

② スタートをきめる。

③ たからもののありかを文にする。

たからものは、まえに二つ目、右に一つ目があります。

④ たからものちがしをする。